

戦中・戦後 松原はどうなった？



直正公銅像は供出され徴古館は閉館。
銅像園は戦地引揚者の生活の場に供され、
松原は時代の変化に応じた役割を果たしました。

第

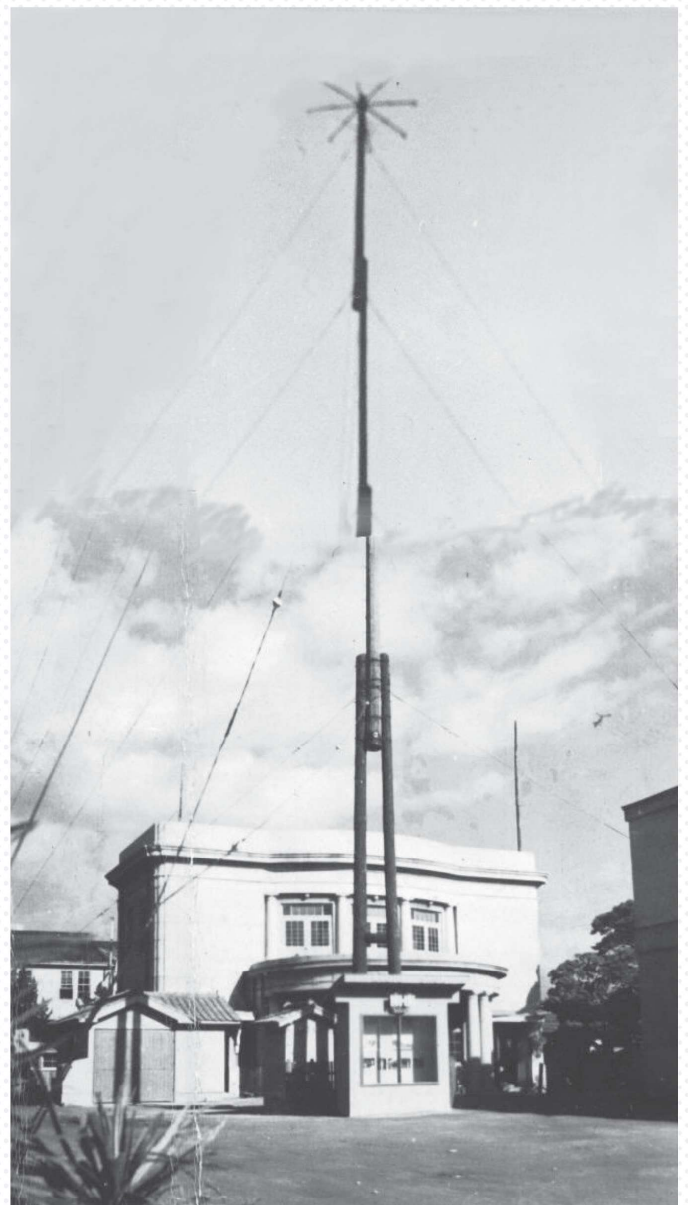
二次世界大戦の時代。金属回収により、昭和18年(1943)に徴古館収蔵の機械金属品、弘道館記念碑の鉄柵、直正公銅像の付属金物、松原神社の銅製鳥居や灯籠までもが供出きょうしゅつされました。翌年には銅像本体の金属供出のため直正公は「出征」し、時局の変化により徴古館での博物館活動も中止されました。

戦後まもない昭和23年(1948)の地図(パネルNO.20)には、銅像や徴古館の名は見えません。旧銅像園一帯は戦地から引き揚げた人々の生活の場となり、様々な店舗が軒を連ねる「松原マーケット」が自然と形成されました。時代の変化によって求められる役割に応えてきた松原という場所の公共性・社会性がうかがえます。

ラジオ放送を行っていたNHK佐賀放送局は昭和24年(1949)から徴古館に局舎を移転し、同30年(1955)に同じ松原の商工会館内へ(パネルNO.20の地図参照「放送局」)、同43年(1968)に城内へ、そして新放送会館ができた令和4年(2022)ふたたび松原に戻ってきました。



昭和53年の松原マーケット
佐賀新聞社提供



NHK時代の徴古館
NHK佐賀放送局提供